

国語

一般選抜 学力試験 2 科目型入試後期/大学入学共通テスト併用型入試 2 期

(総評)

国語入試では、次の力を確認する。

- ・高等学校で履修した国語科目について、基礎的知識を有しているか。
- ・高等学校で履修した国語科目について、修得した基礎的知識を応用する力を有しているか。
- ・情報を読み解き、理解した内容を他者に分かりやすく表現できるか。

そのための問題として、読解問題を二題、知識問題を一題出題している。読解問題では、論説文を通して、「本文の説明を正確に理解する能力」、「具体と抽象の関係、原因と結果の関係などをおさえながら理解する能力」、「議論の展開をおさえながら理解する能力」、「文章から情報を読み解き、理解した内容を他者に説明する能力」などを測る。また、知識問題では、読解を行うにあたって必要になる語彙力を測る問題を出題している。

(出題分野・テーマ)

【大問一】

岸田秀『幻想の未来』より出題している。著者独自の体系を構築した自我論についての論考である。対人恐怖症の具体的な諸類型を挙げながら日本人の自我について述べられている。本文で述べられている内容を説明する問題、空欄補充・用語の意味などの基礎知識を答える問題の出題をしている。文章中の接続詞に注意しながら、具体例から文章の主題や論理展開などを理解する能力を問う。

【大問二】

黒川伊保子著『ことばのトリセツ』より出題している。ことばの習得について説明する論説文である。本文中で述べられている用語の定義を説明する問題、本文で述べられている結果について原因を説明する問題、空欄補充・用語の意味などの基礎知識を答える問題の出題をしている。これらを通して、本文の定義や論理関係をおさえながら論説文を正確に読解する能力を問う。

【大問三】

特に間違いの生じやすい同音・同訓異字についての問題である。日頃から新聞や書籍の読解を行い、国語辞書等で語句の意味を確かめる習慣を身につけておくことが役に立つ。